３　大麦（小麦）、だいず、そば除草剤

（１）使用上の注意事項

畑作では水田作に比べて効果の幅が大きいので、使用する場合は圃場条件の確保、気象条件、各薬剤の作用特性などを十分に配慮する。

① は種後の土壌処理については、砂質土、低湿地などでは薬害が生じるほか殺草効果も劣るので使用を避ける（薬剤によっては、適用土壌が「壌土～埴土」となっているものもあるので注意する）。

② 土壌処理剤は、覆土後、雑草の発生期前までに、土壌表面に均一散布する。

③ 土壌処理の場合、砕土率を高めて覆土はやや厚めとする。
また、は種は浅まきとならないように注意する（薬害防止のため）。

④ 薬剤の土壌表面処理の場合、薬剤が土中深く入り、作物の種子や根に直接薬剤が作用することがないように十分注意する。

⑤ 土壌が乾燥して極端に水分の少ない場合は効果が劣るので、散布水量を多めにしたり（薬剤使用量は基準どおり）降雨後に散布する。

⑥ 処理直後に激しい降雨にあうと薬害が発生し出芽および根その他の生育を抑えるので、処理後１～２日間は降雨にあわないよう天気予報等に注意し散布する。

⑦ 排水不良田では薬害が生ずるおそれがあるため、使用を避ける。

⑧ 生育期処理は、作物の生育を考慮して雑草発生～初期に散布する。
散布の際に、付近の作物にかからないよう注意する。

（２）使用方法

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注意事項
大麦（小麦）	は種直後（雑草発生前）	クリアターン細粒剤F ベンチオカーブ 8.0% ペンディメタリン 0.80% リニュロン 1.2%	1 (1) (1) (1)	全面土壌散布 4～5kg	土壌全面均一に散布する。	・対象雑草は1年生雑草。ただし、トレファノサイド乳剤、トレファノサイド粒剤2.5 はツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く。 ・サターンバアロの適用土壌は、壌土～埴土である。 ・散播栽培等覆土を行わない場合は散布しない。 ・砂土、わらだけの覆土、芽だしまきのときは散布を行わない。 ・覆土が浅いと薬害が出やすいので、覆土は細かく砕き、やや厚めとする。 ・(トレファノサイド乳剤)
	は種直後（雑草発生前）	クリアターン乳剤 ベンチオカーブ 50% ペンディメタリン 5% リニュロン 7.5%	1 (1) (1) (1)	全面土壌散布 500～700mℓ	70～100 ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
	は種後～発芽前（雑草発生前）	サターンバアロ粒剤 ベンチオカーブ 8% プロメトリン 0.8%	1 (1) (2)	全面土壌散布 3～5kg	土壌全面均一に散布する。	
	は種直後～麦出芽前	サターンバアロ乳剤 ベンチオカーブ 50% プロメトリン 5%	1 (1) (2)	全面土壌散布 500～750mℓ	70～100 ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
	は種後出芽前	トレファノサイド粒剤2.5 トリフルラリン 2.5%	2 (2)	全面土壌散布 4～5kg	土壌全面均一に散布する。	
	は種後出芽前（雑草発生前）	トレファノサイド乳剤 トリフルラリン44.5%	2 (2)	全面土壌散布 200～300mℓ	100 ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
	は種後出芽前（雑草発生前）	キックボクサー細粒剤F プロスルホカルブ 7% リニュロン 1.75%	1 (2) (1)	全面土壌散布 3～4kg	土壌全面均一に散布する。	
	は種後出芽前（雑草発生前）	ムギレンジャー乳剤 プロスルホカルブ46% リニュロン11.5%	1 (2) (1)	全面土壌散布 300～600mℓ	50～100 ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注意事項
大麦（小麦）	は種後出芽前～出芽揃期（雑草発生前）	バンバン細粒剤F エスプロカルブ6.0% ジフルフェニカン0.15%	1 (1) (1)	全面土壌散布 3～5kg	土壌全面均一に散布する。	・対象雑草は1年生雑草。 ・その他注意事項は前頁参照。 ・砂土を除く。
	は種後出芽前（雑草発生前）	バンバン乳剤 エスプロカルブ60% ジフルフェニカン1.5%	1 (1) (1)	全面土壌散布 300～500 mℓ	100 ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
	は種後出芽前（雑草発生前）	ガレース乳剤 ジフルフェニカン 3.7% トリフルラリン 37%	1 (1) (2)	全面土壌散布 200～250mℓ	100 ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
	は種後発芽前（雑草発生前） または 麦1～2葉期（雑草発生前～発生始期）	ガレースG ジフルフェニカン 0.15% トリフルラリン 2%	1 (1) (2)	全面土壌散布 4～5 kg	土壌全面均一に散布する。	・対象雑草は畑地1年生雑草。 ・その他注意事項は前頁参照。 ・砂土を除く。
	生育期処理は種後～麦2(小麦4)葉期（雑草発生前～発生始期）	ボクサー プロスルホカルブ 78.4%	2 (2)	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布 400～500mℓ	70～100 ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	・対象雑草は1年生雑草。 ・その他注意事項は前頁参照。
	生育期処理は種後～麦2葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）	リベレーターG ジフルフェニカン 0.2% フルフェナセット 0.6%	1 (1) (1)	全面土壌散布 4～5 kg	土壌全面均一に散布する。	・対象雑草は1年生雑草。 ・砂土を除く。
	生育期処理は種後～麦3葉期（雑草発生前～発生始期）	ハーモニー細粒剤F チフェンスルフロンメチル 0.15%	1 (1)	全面土壌散布 4～5 kg	土壌全面均一に散布する。	・対象雑草は1年生広葉雑草およびスズメノテッポウ。 ・砕土、整地、覆土を丁寧に行い、均一に散布する。 ・発生前から発生始期のスズメノテッポウや多くの一年生雑草に優れた除草効果を発揮する。 ・周辺の作物に飛散する恐れがある場合は散布しない。 ・砂土を除く。
	生育期処理は種後～麦3葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）	リベレーターフロアブル ジフルフェニカン 8.4% フルフェナセット 33.6%	1 (1) (1)	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布 60～80 mℓ	100 ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	・対象雑草は1年生雑草。 ・砂土を除く。

作物名	使用時期	除　草　剤　名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注意事項
大　麦（小麦）	生育期処理は種後～節間伸長前（但し、スズメノテッポウ5葉期まで）	ハーモニー75DF水和剤 チフェンスルフロンメチル 75%	1 （1）	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布 5～10g	50～100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	・対象雑草は1年生広葉雑草およびスズメノテッポウ。 ・生育期のスズメノテッポウや多くの一年生広葉雑草に優れた除草効果を発揮する。 ・周辺の作物に飛散する恐れがある場合は散布しない（ドリフトレスノズルの使用が望ましい）。 ・タンク及び使用器具は使用後すみやかに消石灰を用いて洗浄する。
	穂ばらみ期まで（雑草生育初期）	アクチノール乳剤 アイオキシニル 30.0%	2 （2）	雑草茎葉散布 100～200mℓ	70～100ℓの水に希釈して散布する。	・対象雑草は畑地一年生雑草

※使用回数については農薬の使用回数、および成分毎の使用回数（成分名の記載と同じ行に記載される括弧書きの数字）を記載した。

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注意事項
だいず	は種直後(雑草発生前)	クリアターン細粒剤F ベンチオカーブ 8% ペンディメタリン 0.8% リニュロン 1.2%	1 (1) (1) (2)	全面土壌散布 4～5 kg	土壌全面均一に散布する。	・対象雑草は1年生雑草。また、トレファノサイド乳剤および同粒剤2.5はツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く。 ・覆土は細かく砕いた土を用い3cm位丁寧に行い、土壌表面をなるべく均平にする。 ・散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を延期する。 ・土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので散布水量を多めにするか降雨後に散布する。 ・直径2cm以下の土塊重量が全体の60%以上になるよう砕土する。 ・雑草発生前(は種後日数を置かない)に土壌表面にムラなく均一に散布する。 ・粒剤は乳剤よりも効果が変動するので注意する。 ・(トレファノサイド乳剤、プロールプラス乳剤) ・エコトップP細粒剤F、エコトップ P 乳剤、プロールプラス乳剤は砂土を除く全土壌。
		クリアターン乳剤 ベンチオカーブ 50% ペンディメタリン 5% リニュロン 7.5%	1 (1) (1) (2)	全面土壌散布 500～800mℓ	70～100 ℓ の水に溶かして全面均一に散布する。	
	は種後～出芽前(雑草発生前)	サターンバアロ粒剤 ベンチオカーブ 8% プロメトリン 0.8%	1 (1) (1)	全面土壌散布 4～6 kg	土壌全面均一に散布する。	
	は種後出芽前	サターンバアロ乳剤 ベンチオカーブ 50% プロメトリン 5%	1 (1) (1)	全面土壌散布 600～1000 mℓ	70～100 ℓ の水に溶かして全面均一に散布する。	
		トレファノサイド粒剤2.5 トリフルラリン 2.5%	1 (2)	全面土壌散布 4～6 kg	土壌全面均一に散布する。	
		トレファノサイド乳剤 トリフルラリン 44.5%	1 (2)	全面土壌散布 200～300mℓ	100 ℓ の水に溶かして全面均一に散布する。	
	は種後出芽前(雑草発生前)	エコトップP細粒剤F ジメテナミドP 1% リニュロン 1.4%	1 (1) (2)	全面土壌散布 4～6 kg	土壌全面均一に散布する。	
		エコトップP乳剤 ジメテナミドP 8.5% リニュロン 12%	1 (1) (2)	全面土壌散布 400～600mℓ	100 ℓ の水に溶かして全面均一に散布する。	
		プロールプラス乳剤 ジメテナミド P 6.7% ペンディメタリン 6.5% リニュロン 11.4%	1 (1) (1) (2)	全面土壌散布 400～600mℓ	70～150 ℓ の水に溶かして全面均一に散布する。	
		フルミオWDG フルミオキサジン 50%	1 (1)	土壌全面散布 5～10g	100 ℓ の水に溶かして全面均一に散布する。	・散布後は散布器のタンクやホース・ノズル十分に洗浄する。 ・対象雑草は1年生広葉雑草
	出芽直前～3葉期まで(雑草発生始期～2葉期)	パワーガイザー液剤 イマザモックスアンモニウム塩 0.85%	1 (2)	雑草茎葉散布又は全面土壌散布 200～300mℓ	100 ℓ の水に溶かして全面均一に散布する。	・前処理として土壌処理剤を使用。 ・砂土では使用しない。 ・展着剤を加用しない。 ・周辺作物に影響を与える可能性があるので飛散に注意する。

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注意事項
だいず	雑草生育期 イネ科雑草 3～5葉期 (収穫60日前まで)	ワンサイドP乳剤 フルアジホップP 17.5%	1 (1)	雑草茎葉散布 75～100mℓ	25～100ℓの水に溶かして散布する。	・対象雑草は一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)。 ・ワンサイドP乳剤はシバムギ、レッドトップにも登録がある。 ・イネ科雑草に優れた効果があるが、広葉雑草およびカヤツリグサには効果がない。 ・遅効性のため、枯殺するまで日数を要する。 ・周辺のイネ科作物にかからないように散布する。
	雑草生育期 イネ科雑草 3～5葉期 (収穫30日前まで)	ナブ乳剤 セトキシジム 20%	1 (1)	雑草茎葉散布 150～200mℓ	100～150ℓの水に溶かして散布する。	
	雑草生育期 イネ科雑草 6～8葉期 (収穫30日前まで)			雑草茎葉散布 200mℓ	100ℓの水に溶かして散布する。	
	耕起前または出芽前まで	ラウンドアップマックスロード グリホサートカリウム塩 48%	2 (4)	雑草茎葉散布 200～500mℓ	50～100ℓの水に溶かして散布する。	・対象は1年生雑草。
	雑草生育期:畦間処理収穫前日まで		2 (4)	200～500mℓ		
	雑草生育期 落葉終期～収穫14日前まで		1 (4)	雑草茎葉散布 500mℓ		
	雑草生育期 イネ科雑草 3～10葉期 (収穫30日前まで)	ポルトフロアブル キザロホップエチル 7%	1 (1)	雑草茎葉散布 または 全面散布 200～300mℓ	50～100ℓの水に溶かして散布する。	・対象雑草は一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)。
	雑草生育初期～6葉期 (大豆2葉期～開花前まで) (収穫45日前まで)	大豆バサグラン液剤 (ナトリウム塩) ベンタゾン 40%	1 (2)	雑草茎葉散布 100～150mℓ	100ℓの水に溶かして散布する。	・対象雑草は1年生雑草(イネ科を除く) ・広葉雑草に効果を示すが，効果がない雑草草種もあるので注意する。(3)-1参照。 ・大豆に薬害が生じる場合があるので(3)-1 注意事項を遵守する。
	本葉2葉期～開花前 (雑草生育期) (収穫45日前まで)	アタックショット乳剤 フルチアセットメチル 2.0%	1 (1)	雑草茎葉散布 または 全面散布 30～50mℓ	100ℓの水に溶かして散布する。	・土壌処理剤との体系で使用する。 ・他の除草剤との混用、展着剤の加用はしない。 ・処理後6時間以内の降雨があると効果が劣る場合があるので注意する。

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注意事項
だいず	大豆本葉3葉期以降雑草生育期(収穫30日前まで)	ロロックス リニュロン 50%	1 (1)	雑草茎葉兼土壌散布(畦間・株間処理) 100～200g	70～150ℓの水に溶かして散布する。	・対象雑草は一年生雑草。 ・専用ノズルを使用し、噴口をなるべく低くして作物の葉にかからないようにする(作物の成長点付近に薬剤を付着させない)。 ・イネ科雑草には効果が劣る場合がある。
	雑草生育期・は種後出芽前・畦間処理(収穫28日前まで)	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	3 (3)	雑草茎葉散布 300～500mℓ	100～150ℓの水に溶かして散布する。	・対象雑草は一年生雑草。 ・作物に飛散しないようになるべくドリフトレスノズルを使用し、雑草の茎葉全体に付着するように散布する。 ・風のない日に散布する。
	雑草生育期畦間処理(収穫28日前まで)	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	3 (3)	雑草茎葉散布 300～500mℓ	100～150ℓの水に溶かして散布する。	・対象雑草は一年生雑草。 ・作物に飛散しないようになるべくドリフトレスノズルを使用し、雑草の茎葉全体に付着するように散布する。 ・風のない日に散布する。
	雑草生育期畦間処理(本葉5葉期以降)(収穫30日前まで)	ダイロンゾル DOMU 50%	1 (1)	雑草茎葉散布又は全面土壌散布 100～200mℓ	100ℓの水に溶かして散布する。	・対象雑草は一年生雑草。 ・作物に飛散しないようになるべくドリフトレスノズルを使用し、雑草の茎葉全体に付着するように散布する。 ・風のない日に散布する。
	雑草生育期畦間処理(雑草の草丈30cm以下)(収穫3日前まで)	プリグロックスL ジクワット 7% パラコート 5%	4 (4) (4)	雑草茎葉散布 600～1000mℓ	100～150ℓの水に溶かして散布する。	・対象雑草は一年生雑草。 ・作物に飛散させない。 ・毒物。

※ 使用回数については農薬の使用回数、および成分毎の使用回数(成分名の記載と同じ行に記載される括弧書きの数字)を記載した

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注意事項
そば	播種前 (雑草生育期)	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	3 (3)	300～500mℓ	100～150ℓの水に溶かして散布する(雑草茎葉散布)。	・対象雑草は一年生雑草。 ・養魚田およびその付近では使用しない。
	耕起前または播種前 (雑草生育期)	ラウンドアップマックスロード グリホサートカリウム塩 48%	2 (2)	200～500mℓ	50～100ℓの水に溶かして散布する(雑草茎葉散布)。	・対象雑草は一年生および多年生雑草。 ・散布後2時間以内に降雨が予想される場合は散布を見合わせる。 ・専用ノズルを使用する。 ・排水溝および排水溝まで飛散する恐れがある所では使用しない。 ・養魚田およびその付近では使用しない。 ・眼に入らないよう注意する。 ・皮膚に付着しないよう注意する。

※使用回数については農薬の使用回数、および成分毎の使用回数(成分名の記載と同じ行に記載される括弧書きの数字)を記載した。

（３）大豆バサグラン液剤の使用について

①　使用方法

作物名	対象雑草名	使用時期	除草剤名	10アール当たり使用量	使用方法	使用回数
だいず	一年生雑草（イネ科を除く）	一年生広葉雑草の生育初期～6葉期（ダイズの2葉期～開花前まで、但し収穫45日前まで）	大豆バサグラン液剤(Na塩) ベンタゾン　40%	100～150mℓ	100ℓの水に溶かして散布する（雑草茎葉散布）。	1回

②　使用上の注意事項

だいずの除草対策は、は種覆土直後の除草剤散布と中耕・培土２回による雑草の発生抑制を基本とする。

中耕・培土が適正に実施できず畑地一年生広葉雑草が問題となる圃場で、開花前の早い時期に散布する。

ア　だいずの品種によっては薬害（葉に斑点、色抜け、黄変、縮葉症状等の一過性のもの）により減収する場合があるので、本剤の使用にあたっては指導機関に相談するなど十分注意する。また、使用者の責任において事前に使用品種における薬害の程度を十分確認してから使用する。

イ　適用雑草は一年生広葉雑草であるが、アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科の雑草には効果が劣る。

ウ　本県では、「エンレイ」および「里のほほえみ」に使用可能である。「あやこがね」は薬害が強く出ることがあるため使用を避ける。

エ　除草効果を高め、薬害の発生および助長を防ぐため、薬液が雑草全体によく付着し、だいずへの付着量が極力少なくなるように散布する。また、薬害を助長するので重複散布はしない。

オ　①著しい高温が続く場合、②日射が強く蒸散が盛んな場合、③低温、湿害、肥料不足等によりだいずが生育不良の場合は薬害を助長することがあるので、使用を避ける。

カ　降雨後の土壌が湿潤な状態（溝に停滞水がある）で散布すると、散布薬剤がだいずに吸収され、株全体が黄化等の薬害を起すため、このような状態では使用を避ける。

キ　他剤との混用は避ける。

ク　散布後、曇天、降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるので留意する。

ケ　周辺作物にかからないように注意する。

コ　本剤を使用した場合は、えだまめ用途としない（えだまめでは登録がない）。

（４）ラウンドアップマックスロード（だいずの落葉終期）の使用について

1)　落葉終期とは、だいずの葉の大部分が落葉した時期とする。

2)　薬液がだいずにかからないように散布する。

3)　水分含量の高い果実をつけた雑草では、茎葉が枯れても果実が残る場合があり、汚損粒の原因となるので収穫前に除去等を行うこと。また、雑草の茎水分含量が高い場合も汚損粒の原因になるので、収穫前に除去等を行うこと。

4)　気温が低下する条件での処理であり、効果の完成まで 2 週間以上の期間を要するので、収穫時期は処理後 3 週間を目安とする。

（５）大麦（小麦）の圃場内の周縁部における除草剤使用について

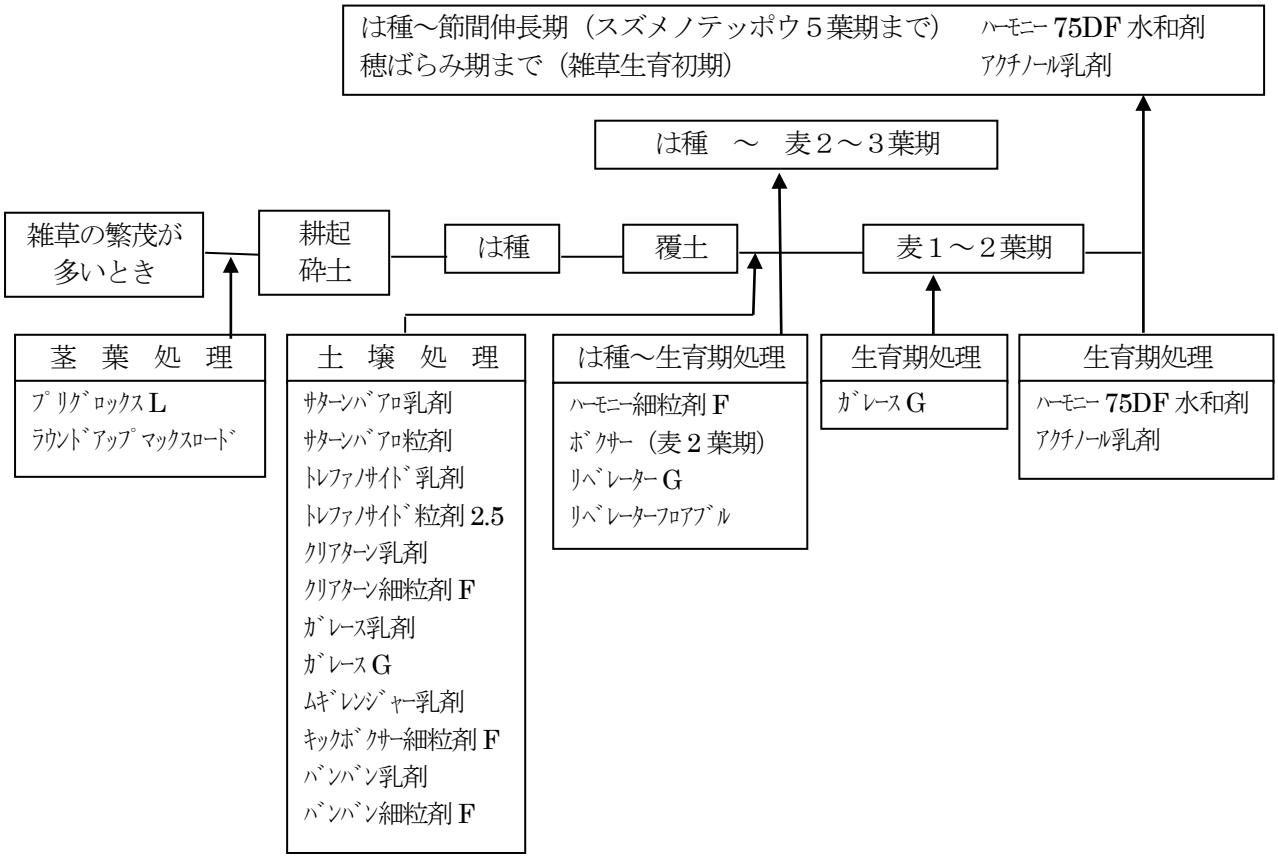
「圃場内の周縁部」とは、圃場内であって作物が植えられていない周縁部分を示す。排水溝内に農薬を散布すると水を介して河川等へ飛散、流入する可能性がある場合は、排水溝内への散布は控える。

（６）水田転換畑の麦類・だいず等の畦畔で除草剤を使用する際の注意点

除草剤の中で適用場所が「水田畦畔」と限定されているものについては、その水田で「水稲」が栽培されている場合に限って使用できる。麦類・だいず等の水稲以外の作物が栽培されている水田の畦畔には、「水田畦畔」で登録がある除草剤でも使用できない。水田畦畔には、水田で栽培されている作物（麦類やだいず）に適用がある除草剤を、登録内容を遵守して使用しなければならない。

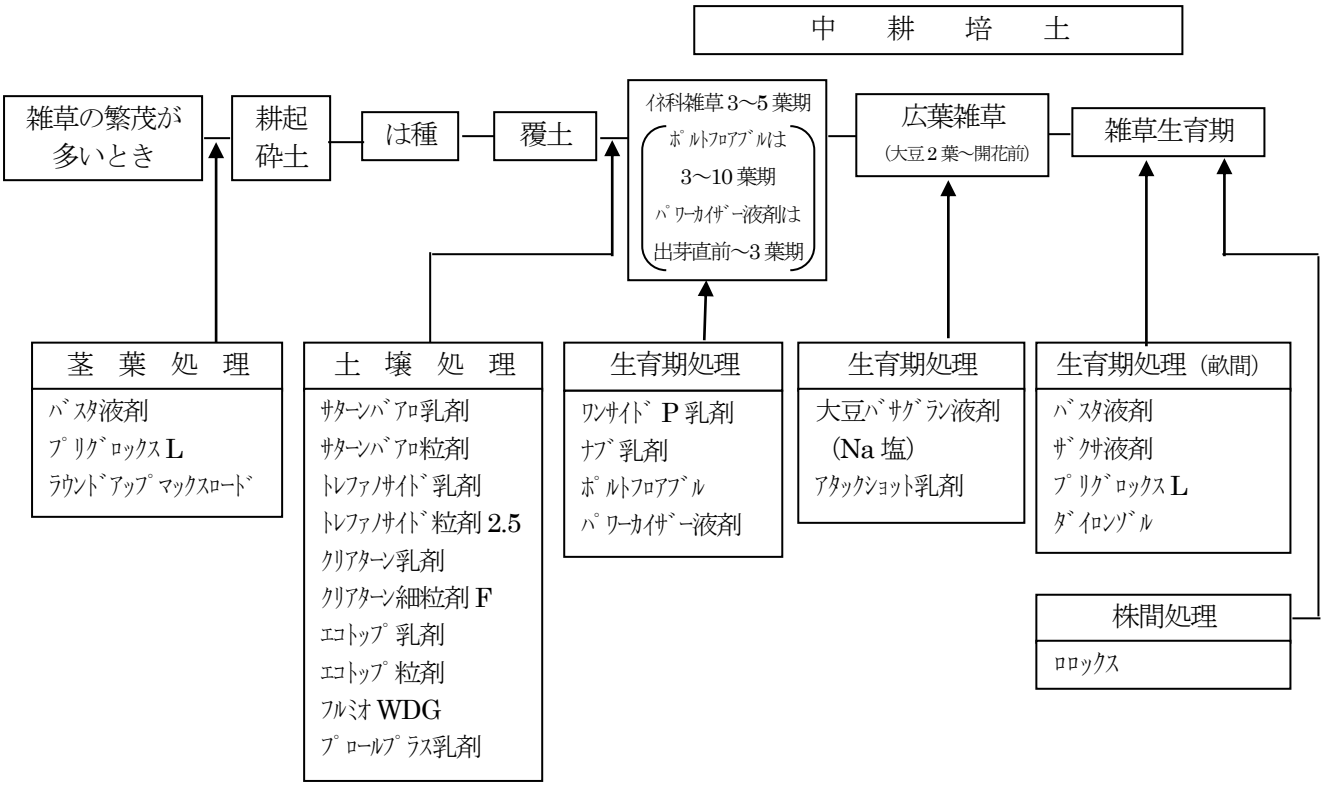
（７）除草剤体系　（例）

①　大麦の除草



・サターンバアロ乳剤・粒剤とクリアターン乳剤・細粒剤Ｆは、いずれか一つを１回だけ使用できる。
・クリアターン乳剤・細粒剤Ｆとムギレンジャー乳剤、キックボクサー細粒剤Ｆは、いずれか一つを１回だけ使用できる。
・ガレース乳剤・Ｇとバンバン乳剤・細粒剤Ｆとリベレーター Ｇ・フロアブルは、いずれか一つを１回だけ使用できる。
・ハーモニー細粒剤Ｆとハーモニー７５ＤＦ水和剤は、いずれか一つを１回だけ使用できる。
・早まきは、温暖なため雑草の出芽や再生にも好適なことから、雑草が多発しやすい。
・春、雑草が目立ってからでは除草できないので、越冬前の除草に努める。

②　だいずの除草



・生育期処理の除草剤は、使用できる時期（収穫前日数）に制限があるので、処理の際に注意する。
・だいずの生育量を確保し、抑草効果を高める。
・排水対策の徹底に努め、砕土、は種、覆土を丁寧に行い、特にだいずの出芽および初期生育を促す。
・中耕・砕土を早めに丁寧に実施し、雑草の小さいうちに確実に覆う。
・収穫期に残った大きな雑草は、コンバイン収穫すると汚損粒の原因となるので、手で抜き取る。